

【寄稿】タイで8ヶ月間NPO活動 リサイクルバンク立ち上げに参加 時田 麻弓
(法4)



卒業する前に、国際協力の現場で働きたいという願いがかないました。

昨年、大学を1年間休学し、8月から約8カ月間、タイ南部ハジャイにある「グリーンウェイ」というNPO団体で、環境教育プロジェクトのメンバーとして同地でリサイクルバンクを立ち上げました。リサイクルバンクとは、いわば「ベルマーク」のようなもので、ゴミを持ってきた子供

たちにゴミの種類や量に応じてポイントをあげます。そして、子供たちが集めたポイントによって商品と取り替えられるというものです。これは、それまで庭の空き地で缶もプラスチックもそのまま火をつけて焼いていたその村にとっては、画期的なことです。

2つの学校で5人のボランティアと先生方によってプロジェクトを進めましたが、役所の方も加わって、さらに7校での実施が検討されています。本当にうれしいことです。

多彩なプロジェクトに接する

私は、はじめからNPOやNGO活動に専門的な知識があるわけではありませんでした。そのことに不安はあったものの、国際的な環境で私自身を試してみたいという思いがあり、休学期間をこの地で過ごすことに決めました。

実際に取り組んでみて、専門知識の重要性はやはり感じました。しかし、そのよりもっと重要なことは、タイの文化を理解しようとする気持ち、今の状態を把握し相手が求めているものの手助けをどうすれば実現出来るかということだと、周囲の仲間たちから学びました。

ここでは、ワークキャンプや英語の授業、エコツアーなどのプロジェクトがあり、長期間いる各国のボランティア同士が話し合っ進められます。ほかにも毎月、多くの国から2週間ほどの短期のボランティアも訪れます。そのため、毎日の共同生活では英語はもちろん、ドイツ語やスペイン語などさまざまな言語が飛び交い、本当ににぎやかでした。

タイのボランティアたちからはタイ語を学び、よく夜遅くまで語り合いました。欧米のボランティアたちには英語を教えてもらいながら小さな文化の違いについてよく話をしました。今思えば、あんなに多くの外国人が入り混じって生活することは、今後もそう簡単に経験できない、とても大切な時間だったと思います。

タイは私の第2の故郷になりました。辛いことももちろんありましたが、この国には私を大きく包んでくれる温かさがあったような気がします。そして、もらった温かさを私も人にあげられるよう、日本に帰ってからもがんばっていかうと思いました。

国際協力や国際交流と聞くと、すごいことをやっているような気がしますが、電車で席を譲ることと何も変わらない身近なことなのだと感じた1年でした。

オージーの温かい声援に感謝 初のオーストラリアンフットボールW杯に出場 塚越 太史(経済3)

僕達、オーストラリアンフットボール愛好会の5人は、8月に豪州メルボルンで開催されたW杯に日本代表の一員として出場しました。

出場国は日本のほか米国、英国、カナダ、アイルランド、デンマーク、ニュージーランド、サモア、パプアニューギニア、ナウル共和国、南アフリカです。

オーストラリアンフットボールは、本場の豪州では「国技」として親しまれ、フットボールの中で最もスピーディーでシンプルかつエキサイティングな競技です。縦180メートル、横150メートルの楕円形のグラウンドで1チーム18人、試合は1試合25分×4クオー

ター制で行われます。得点方法は4本のポールの中央に蹴り込めば6点(ゴール)、両脇に蹴り込めば1点(ビハインド)となります。

忘れられない異国での出会い

8月16日、開会式が行われました。場所はメルボルン・クリケット・グラウンド(MCG)。ここは、このスポーツの聖地で約10万の収容人数を誇り、シドニー五輪時にはサッカーの予選会場にもなりました。入場行進はプロの試合のハーフタイムに行われたこともあり、スタンドからは熱い歓声が湧き上がりました。巨大スクリーンに映された姿は、サッカーなどの日本代表のように見えました。

今回最大の目的は、初のW杯ということもありもちろん優勝。ほか10チームも当然狙っており、その表情は鬼気迫るものでした。試合会場に到着し、一歩芝生に足を踏み入れた瞬間、気が引き締め、また国家斉唱の時には鳥肌が立つほどの感動を覚えました。

この大会で何よりの経験になったことは、異国の人との出会いでした。言葉も文化も違う人々が、同じ目標を持って戦うことで生まれる友情や地元オージーたちの温かい声援は、忘れることが出来ません。惨敗して落ち込んでいる僕らにエールを送るオージーたちの心の優しさに、涙が流れるほど感動しました。

結果は10位という成績でしたが、僕の今までの人生の中で一番の思い出となりました。これからは、来年5月の大会(豪州ダーウィンで開催)に向けて練習を積み、次回は必ず優勝します。

今回参加した他の本学選手は以下の通り(敬称略)。杉谷大樹(商3)、加瀬毅(商2)、福島健太(文2)、高岡裕(経営1)

〔10月15日/ニュース専修12面〕